

新刊

中京大学社会科学研究所
台湾史研究センター

編
(編集代表 檜山幸夫)

台湾史
研究資料

①

編集復刻版

殖産部史料 全8巻

台湾史研究は基礎調査開始の第一世代期、

日本の敗戦による社会動乱・暗黒の

第二世代期を経て今日

本格的な研究基盤推進の第三世代期に入った

龍溪書舎

「台湾史研究資料」の意義

今日、台湾史研究は第三世代に入っている。本格的研究が始まったのは、台湾総督府が大正十一年に「史料編纂委員会」を設置して、基本的史料の調査・蒐集と編纂を行ってからであるが、当初は、清朝時代における漢族系住民のさまざまな歴史および民俗調査や、台湾原住民に対する人類学的調査などを行っていた。台湾統治四〇年を迎える頃になると、台湾島民の意識に質的変化が起こってくる。台湾アイデンティティーの萌芽である。その結果、多くの史資料が提供され、台湾史の研究基盤が確立されていく。これが、台湾史研究の第一世代の特徴といえよう。

一九四五年、日本の敗戦によって帝国が崩壊し、台湾総督府が解体されて戦後民主主義が到来したことにより、台湾史研究は飛躍的に発展する環境が揃ったが、国民党政権の中国化政策と暗黒政治によって、却って台湾史研究は冬の時代へと入っていく。このなかで、日本に留学した台湾人研究者によって、新たな台湾史研究の地平が切り拓かれていく。一方、日本の台湾史研究も、戦後歴史学の特異な研究環境により旧植民地研究はタブー視されていたが、日本史研究の発展に伴う台湾史研究の見直しと、若い研究者が徐々にではあるが増えていくようになり、加えて戒厳令解除と台湾史研究の解禁という台湾における政治環境の変化に伴い、史資料の復刻による文献資料の提供と、原文書史料の公開という、研究の基盤整備が急速に進められていった。このような第二世代の特徴は、研究者や所蔵機関そして出版社の努力によって台湾史研究の基礎が構築されていったことにより、一九四五年以降断絶した三〇年間におよぶ空白が埋められたことにあるといえる。

だが、この限りでは戦前期の研究環境条件に戻ったに過ぎない。これからの第三世代においては、新しい史資料の編纂と、戦前期、一般には提供されていなかった史資料を翻刻・復刻したりする、発展的研究環境整備事業が求められることになろう。

『殖産報文』の刊行に向けて

中京大学社会科学研究所
台湾史研究センター代表 檜山 幸夫

台湾総督府は、統治政策を立案するために文明的・科学的方法を以て実情を把握すべく、専門家や総督府の技術官僚などを派遣し島内の実地調査を行った。それらは、漢族系住民の歴史文化や民族の調査、台湾原住民への人類学的調査から、地下資源・水産資源・農業資源などの調査、さらに産業や農業技術・流通機構・商慣行など多岐に及ぶ。そこで記録されたものは、殆ど史資料が残されていない領台前の実態を知る貴重な情報ともなる。

ここで調査収集され分析された記録情報は、総督や民政長官に提出されると共に、担当部課などで編纂刊行されて、本府各部課や機関及び内地の関係機関等に提供され、情報の共有化が図られていく。その一つが、ここで復刻する『殖産報文』である。

『殖産報文』は、民生局殖産部が編纂した領有時における澎湖島を含む農業・林業・水産業・漁業・塩業・鉱業・商工業・度量衡などに関する記録であった。それらは、総督府の技師・技手や吏員などによって調査され報告書として纏められたもので、内容的には極めて水準の高いものである。しかし、注意しなければならないのは、ここに収録されている記録は、飽く迄も調査復命書であることからその原本が台湾総督府公文類纂に綴じられているとは限らないことにある。それは、台湾総督府文書が行政文書であるからで、そこで保存される文書は文書保存規則に従って分類整理されたものでしかなく、従って報告内容の価値と直接的に係わっているとは必ずしも限らないからにはかならない。このため、『殖産報文』に収録されている復命書のなかには、公文類纂に綴じられ保存されていない文書も少なからずある。それは、総督官房文書課で保存されずに担当部課などで保存されたり廃棄されたからで、それだけに却って貴重な記録であるともいえよう。

本書においては、このように殖産部によって編纂刊行された『殖産報文』のなかで、現在までに発見できた、明治二九年から三三年のものを復刻した。この『殖産報文』の史料価値については、東山京子が解説「台湾総督府文書と殖産報文」において、詳細な史料学的分析を行っているのでそれを参考にされれば、さらに本書の価値が理解されよう。

本書の刊行により、台湾史研究は大きく前進することが期待されるとともに、現在、台湾で進められている台湾学の発展に多少とも寄与することが出来るのではなからうか。

本書を

すいせんします

(東京大学大学院
総合文化研究科准教授)

川島 真

(台湾文学研究者・東京大学
／日本大学非常勤講師)

河原 功

(国立交通大学客家文化学院
人文社会学系教授)

黄 紹 恒

(京都大学大学院
教育学研究科准教授)

駒 込 武

(国立台湾師範大学
歴史学系教授)

呉 文 星

(一橋大学経済研究所教授)

佐藤 正 広

(国立台湾師範大学
台湾史研究所副教授)

蔡 錦 堂

(国立台湾大学史学系教授)

周 婉 窈

(宇都宮大学国際学部教授)

松金 公 正

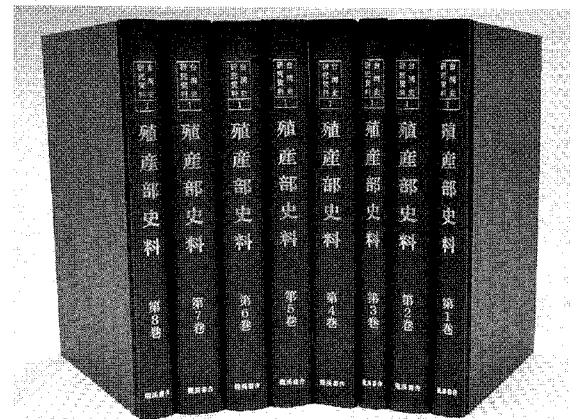
(五十音順・敬称略)

第一期 『殖産報文』 内容紹介

中京大学社会科学研究所
台湾史研究センター 東山京子

台湾総督府殖産部により「永ク之ヲ当部ニ保存シ兼テ台湾産業ノ一班ヲ世ニ紹介セント欲スルニ在リ」(緒言)として編纂刊行された『殖産報文』である。

台湾総督府は、台湾統治の初期段階において、台湾全体を把握するために、台湾総督府殖産部の技師・技手や地方庁の職員などを派遣し、調査を行った。各地における地理・地形・村落・生活・交通・漁業・塩業・林業・樟脳・農業・糖業・茶業・商工業・鉱業・度量衡などを調査し、府員や技術者および専門家により、詳細な報告書が作成された。これらの報告書は、台湾総督府の政策決定や政策を執行する上で必要な情報源である。



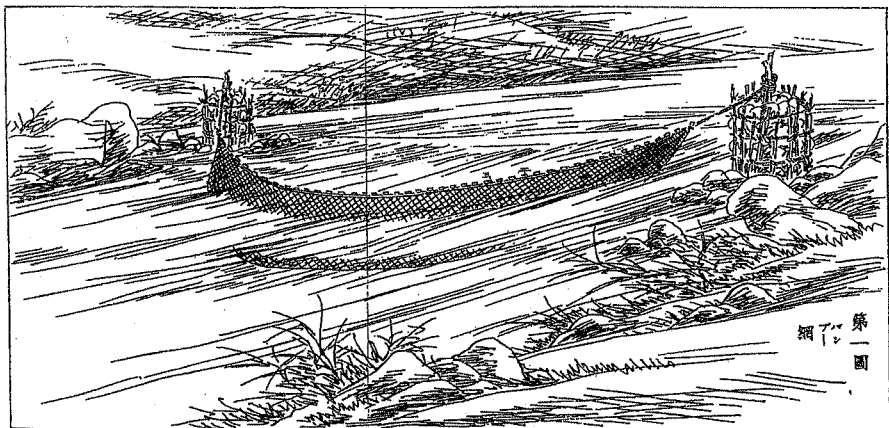
完成見本

台湾統治政策を遂行するために行われた調査報告の内容は、それであるが故に正確且つ精緻なもので、極めて信頼度の高いものであった。さらに、この報告書を基に刊行された『殖産報文』は、文書史料学的にも価値の高い編纂物である。

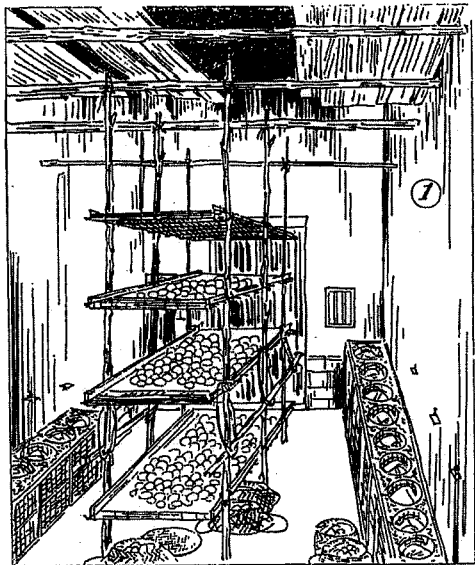
収録史料一覽

巻号	タイトル	発行元	発行・届出(日)
第一巻	『台湾総督府民政局殖産部報文』第一巻第一冊〈水産部之部〉 台湾総督府民政局殖産部調査、大日本水産会		明治二十九年二月二日
第二巻	『台湾総督府民政局殖産部報文』第一巻第二冊〈林業、鉱業、商工業、農業、雑、各部〉 台湾総督府民政局殖産部		明治二十九年二月八日
第三巻	『台湾総督府民政局殖産部報文』第二巻第一冊〈農業、度量衡之部〉 台湾総督府民政局殖産部		明治三〇年三月二八日
第四巻	『台湾総督府民政局殖産部報文』第一巻第一冊〈農業、水産、林業、鉱業〉(上) 台湾総督府民政局殖産課		明治三二年四月七日
第五巻	『台湾総督府民政局殖産部報文』第一巻第一冊〈農業、水産、林業、鉱業〉(下) 台湾総督府民政局殖産課		明治三二年四月七日
第六巻	『台湾総督府民政局殖産部報文』第一巻第二冊〈殖民地之部〉 台湾総督府民政局殖産課		明治三一年三月二日
第七巻	『台湾総督府民政局殖産部報文』第二巻第一冊〈漁業、塩業之部〉 台湾総督府民政部殖産課		明治三三年二月二八日
第八巻	『台湾総督府民政局殖産部報文』第二巻第二冊〈林業、農業、拓殖之部〉 台湾総督府民政部殖産課		明治三三年二月二八日
第九巻	『台東殖民地予察報文』 台湾総督府民政部殖産課		明治三三年三月二五日

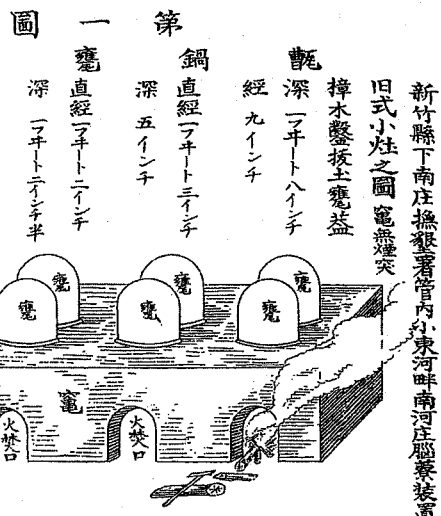
本巻中収録図の一例



↑ 淡水河漁業調査（明治29年）より
 漁法の一例、バンブー網
 （本史料第4巻『台湾総督府民政局殖産報文』
 第1巻第1冊に収録）



⇒ 臺北附近鴨卵人工孵化調査（明治30年）より
 孵化場図
 （本史料第4巻『台湾総督府民政局殖産報文』
 第1巻第1冊に収録）



新竹縣下南庄撫猥署管内小東河畔南河庄膠葉裝置
 旧式小灶之圖 竈無煙突
 掉水鑿拔土竈蓋
 竈深一フットハイチ
 竈九インチ
 鍋 直徑一フット三インチ
 深五インチ
 竈 直徑一フット二インチ
 深一フット一インチ半



⇒ 臺灣森林調査（明治30年）より
 樟腦製法に係わる装置例
 （本史料第7巻『台湾総督府民政局
 殖産報文』第2巻第2冊に収録）

上記のほか、多数の図版を収録

本史料の特色

- 一、日本の台湾統治政策決定の情報源として、調査の方法と内容を知り得る唯一の実地報告書である。
- 二、内容は農業・水産業・林業・鉱業・塩業・商工業・度量衡等多岐に亘り、台湾産業の明治三十二年一月以前の調査記録である。
- 三、刊行目的は該当局に永久保存するだけでなく、広く世間へ紹介するために編纂し、公開したとある。
- 四、内地人が殖民する地域の子察所見の記録であり、台湾総督府の政策決定のための重要な報告書であった。

編集

中京大学社会科学研究所
台湾史研究センター代表

檜山幸夫

解説

中京大学社会科学研究所
台湾史研究センター

東山京子

体裁

A5判・上製・総約二、九〇〇頁

揃定価

二〇〇、〇〇〇円（+税）

刊行

平成二三年一二月

<次刊予告>

中京大学社会科学研究所 台湾史研究センター（代表 檜山幸夫）編

増補改訂翻刻版 **台湾史料稿本**（明治28年～大正8年）

「台湾史料稿本」は、大正11年に正確な台湾史を編纂するために設置した台湾総督府史料編纂委員会（後に史料編纂会に変更）が、台湾総督府公文類聚などの原本史料を基に和文タイプで作成した、第一級の資料集である。この「台湾史料稿本」を、順次翻刻・刊行する。



龍溪書舎

〒179-0085 東京都練馬区早宮2-2-17
TEL 03 (5920) 5222 FAX 03 (5920) 5227
URL: <http://www.ryuukei.com>
Mail: info@ryuukei.com